

平成31年3月20日

京都市中央卸売市場第一市場運営協議会 会議録

開催日：平成31年3月20日（水）13：00～14：15

開催場所：京都市中央卸売市場第一市場 関連1号棟3階 大会議室

出席委員：15名（五十音順）

市民公募委員 芦生 峰子

京都青果物小売協同組合 理事長 石塚 清三

京都市中央卸売市場協会 会長 内田 隆

（会長職務代理者，京都青果合同株式会社 代表取締役社長）

大京魚類株式会社 代表取締役社長 大石 光二

京都水産物小売団体連合会 会長 岡本 勲

京都全魚類卸協同組合 理事長 勝村 一夫（会長職務代理者）

京都野菜卸売協同組合 理事長 久世 明

大阪樟蔭女子大学学芸学部 准教授 工藤 春代

京都市中央卸売市場関連事業者連合会 会長 澤田 利之

京都中央市場青果卸売協同組合 理事長 中川 恵司

立命館大学経済学部 教授 新山 陽子（会長）

新日本婦人の会京都府本部 仁賀 里美

京都府農林水産部 副部長 沼田 行博

京都中央総合食品協同組合 理事長 原田 光佑

市民公募委員 村田 勉

欠席委員：5名（五十音順）

株式会社大水京都支社 執行役員京都支社長 浅田 佳史

全国農業協同組合連合会京都府本部 本部長 宅間 敏廣

京都塩干魚卸協同組合 理事長 辻 泰三

市民公募委員 土岡 香苗

京都市地域女性連合会 常任委員 中野 比佐子

事務局：京都市中央卸売市場第一市場 場長 古井 幸生

京都市中央卸売市場第一市場 次長 大八木 雅史

京都市中央卸売市場第一市場 次長 北村 繁明

京都市中央卸売市場第一市場 参事 福島 正俊

京都市中央卸売市場第一市場 管理課長 舟木 一裕

京都市中央卸売市場第一市場 技術課長 橋本 真也

京都市中央卸売市場第一市場 業務課長 松本 康

その他16名

- 議 題：1 京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン（平成28年度版）の
取組状況について
2 市場施設整備の進捗状況及び今後のスケジュールについて

質疑応答

（村田委員）

京都市場が今後、どのような位置付けとなるのかが気になっている。昭和2年に開設した歴史的な京都市場の未来像について教えてほしい。

（古井場長）

京都市場には、高齢化や人手不足、非効率な業務実態など、解決すべき多くの課題がある。現在、それらの課題を解決するため、施設整備を通じた情報化や衛生管理の向上、物流の効率化等に取り組んでいる。また、七条通に面した約4,000㎡の有効活用地に賑わい施設が建設されているが、今後、新水産棟に整備する見学者通路や、あじわい館との連携を検討していく。さらに、七条通を挟んだ南側の土地においても、開発が進められる予定である。京都市場としては、市場の機能を十分に発揮することに加え、周辺地域、ひいては京都駅西部エリア一帯の活性化にも貢献していきたいと考えている。

（新山委員）

施設整備においては衛生管理の向上が極めて重要である。閉鎖型施設が整備された後も、施設を汚さないようみんなで気を付けていかなければならない。また、市民に市場の役割や機能を理解してもらうため、将来的に生み出される有効活用地においても食彩市のようなイベントを開催すべきと考えるがいかがか。

（古井場長）

市場に近接する土地において、食彩市のような効果が発揮できるのであれば開催してもよいと考えている。ただし、まだ先のことであり不透明な部分が多いので、今後しっかりと検討していく。

（新山委員）

消費者は、市場の食材をどこで購入できるのか知りたがっている。引き続き、消費者を対象としたPRに注力いただきたい。また、小売店組合とも連携しながら、賑わい施設に小売店が出店できないか検討してほしい。

（古井場長）

これまで、市場の食材を扱う店舗において、ポスターやのぼり、チラシを設置するとともに、店舗の一覧表を作成するなどのPRに取り組んできたが、まだまだ宣伝が足りないと感じている。現在、若手職員を中心に、消費者に広くPRする方法を検討している。また、七条通に面した賑わい施設においては、飲食店や小売店の出店条件として、市場の食材を使用することとしている。賑わい施設とも連携しながら、引き続き、消費者等へのPRに取り組んでいく。

（工藤委員）

食の海援隊・陸援隊や料理教室に参加している消費者がどこで生鮮食料品を購入しているのか把握しているのか。

(北村次長)

アンケート調査を実施しているが、どこで購入しているのかまでは把握していない。食の海援隊・陸援隊は今年度から会費を無料としたため、会員数は昨年の倍以上の1,000人越えとなった。今後は、子育て世代へのPRにも注力していきたい。

(沼田委員)

海外展示商談会への出展や海外バイヤーの市場視察受入れなど、輸出に向けた取組を実施されているが、今後の展開について教えていただきたい。

(北村次長)

輸出量の増加は、活用している国補助金の成果目標でもあるため、引き続き、海外展示商談会への出展などに取り組むとともに、輸出に前向きな仲卸への支援を実施するなど、輸出量の増加につなげていきたい。

(古井場長)

平成31年度予算においても、輸出対策に係る事業費を確保している。関西・食・輸出推進事業協同組合とも連携しながら、輸出量の増加に向けた取組を進めていく。

(新山委員)

衛生管理を向上させるには、ハード面よりもソフト面の対策が重要である。衛生管理マニュアルの策定や衛生管理に係る訓練の実施が必要であるが、新施設が完成してから取り組むのでは遅く、今から取り組んでおかなければならない。

(古井場長)

総合品質保証室の設置へ向けた検討を進めている。FSSCにも対応可能な施設にしたい。京都市場独自の衛生管理基準の創設も検討していくつもりである。

(内田委員)

平成29年に開設90周年を迎えた。平成39年には開設100周年を迎える。これまでから施設整備の完了が開設100周年に間に合うよう、平成40年度に完了する整備計画について1年強の前倒しをお願いしてきたが、改めてお願いする。

(古井場長)

整備計画の前倒しをしたいという気持ちは我々開設者も同じであり、可能な範囲で取組を進めている。しかしながら、1年強も前倒しするには、市場機能の一部を市場外へ移さなければならず、莫大な土地や費用が必要となるため、簡単にはいかない。

(勝村委員)

これ以上取扱量が減ってしまうと、量販店等の小売店と取引ができなくなってしまう。輸出拡大も含めてしっかりと対策を練る必要がある。また、賑わい施設に小売店を設けることは難しいかもしれないが、新水産棟から新千本通を挟んだ西側に小売店を設ければ、市場の見学者も買い物ができ、効果的ではないか。

(古井場長)

あらゆる手段を一度に講じることは難しいが、場内事業者の皆さんをはじめ、周辺地域の店舗とも連携しながら賑わいづくりに取り組むとともに、市場の役割と機能をしっかりと確保することを大前提として、慎重に検討していく必要がある。